



(有)オーパーツ代表取締役  
及川 元一さん (小友町、59歳)

## 売れる場所ではなく 買い物が大変な人のところへ

仕事の移動中、峠道にシルバーカーを押すおばあちゃんがいました。帰りに見かけた時は荷物を積んでいました。バスもあるよなと思いましたが、バス停を見たら運行は1日1、2往復。これでは買い物ができないと思いました。地域貢献と言うとカッコいいですが、買い物の大変さを見て、お世話になっている地域で何かできればと考えました。自分も昔お世話になった移動販売を——。よしやるぞと決めました。

約3年続け、収支は何とかやっていけるくらい。売り上げを上げる方法はありませんが、私たちの理念は「売れる場所に行くのではなく、買い物が大変な人のところに行くこと」。戸沢さんなど既存の移動販売事業者と競合しないことも大切にしています。

行政の枠組みの中では手当てできない課題もあると思います。民間企業なら会社の責任の中で直接具体的に支援することができます。自社の製品を作るだけでなく、利益でどう社会に貢献できるかを考えなければいけないと思っています。行政や地域ができないことにマッチングさせることもこれからの時代に必要ではないでしょうか。

小友の一部地域では、中山間の加算金を使った買い物支援が始まっています。応援し合いながら、「あそこもやってんだから、おらもやってみっか」。そんなふうに活動が広がっていったら嬉しく思います。



1\_ 数百種類の商品が積まれた移動販売車でお買い物(市民音楽家の新田光志さんが作詞・作曲し市内小学生が歌ったオリジナル曲がBGM)  
2\_ 庭先でお買い物  
3\_ 会話を楽しむ社員とお客さん



● Voice 利用している人の声



高橋 ヨネさん  
小友町 / 88歳

### 庭先で、自分で見て 買い物できる

自宅の庭で買い物ができるのがいいよね。品揃えもすごいよ。スーパーより高いと思っても、庭先まで来てけっから便利に使わせてもらってました。家族に頼むこともできるけど、やっぱり自分で見て買い物もしたいからね。年寄りには助かるよ。

### 足りないものが買って 便利で助かる

買い物は車で月2、3回遠野の街場へ。重い物をさげて帰ってくるのが大変です。移動販売は、その時に足りない物を買えるから便利で助かるよ。値段はスーパーより高いけど、利用価値がある。運転手も知り合いだから楽しいよ。



多田 敬一さん  
宮守町鱒沢 / 74歳



# きつかけはシルバーカー押すおばあちゃん。 地域を思う、企業の力

山々に囲まれた広大な遠野盆地にオリジナルメロディーを響かせ走る移動販売車。金属部品の精密加工を行う民間企業が、買い物に困っている人を支えようと移動販売を始めました。畑違い、採算は合わず、それでも——。企業の心意気が暮らしを支えています。

精密加工会社による地域貢献

きよくおっのおかずはなに〜♪ 軽快なオリジナル曲にのって野菜や肉、魚などの生鮮食品、調味料、日用雑貨までも。数百種類の商品を車に載せ家々を巡る「移動スーパー・ちゃやつこオーパーツ」。半導体装着などに使われる金属部品の精密加工会社(有)オーパーツ(小友町、及川元一代表取締役)が令和2年6月から、移動販売による買い物支援を始めました。移動販売は平日5日間、車2台でお客さん宅を巡って行われます。出発前の10時頃、社員が市内スーパーから買ってきた商品を荷台に陳列。1軒1軒、庭先へ訪問しお客さんと同社社員が会話を弾ませながら買い物を楽しみます。「免許返納したから助かってるよ。年寄り守ってらっしゃるよ」と菊池

## 待っている人がいる。だから続ける。

昭子さん(小友町)。商品を手に笑顔を見せます。移動販売を担当する昆賢さんは、「お客さんの笑顔がうれしいし会話も楽しみ」と話します。

地域、困っている人のために

畑違いの事業展開。きつかけは同社代表の及川さんが見たシルバーカーを押すおばあちゃんでした。「販売業の商売を知っていたら踏み込まなかった」と及川さん。「スーパーの価格に経費をのせた値段。最初は見向きもされなかった」と振り返ります。口コミで訪問先が広がり、今では市内6町と市外からの依頼にも応じています。及川さんは、「商売として見ると採算は合わない。でも、目的は地域、困っている人に貢献すること。待っている人がいる限り続けたい」と言葉に力を込めます。